

2022年10月04日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:「RBA0.25%の利上げ」「介入の効果は一時的」

RBA(オーストラリア準備銀行=豪州中銀)は、本日(2022年10月4日)のRBA理事会で、政策金利を0.25%引き上げる、と決定した。

事前の予想では、0.25%の利上げを予想する向きと、0.50%の利上げを予想する向きとが拮抗していた。

結果は、上述の通りに0.25%の利上げとなった。

ただし、0.25%の利上げでは、オーストラリアのインフレを鎮静化するには不十分である、と考えます。

だから、RBAは、今後も利上げを継続することになる、と考えます。

+++++

自国のインフレに対抗するために、強い姿勢で利上げを推し進めている米国(RBA)や、ECB(欧州中銀)と比べると、今回のRBAの0.25%の利上げは、小幅に映る、と考えます。

そのため、豪ドルは対米ドルで「売り圧力」を受けることになる、と考えます。

つまり、マーケット(外国為替市場)は、「豪ドル売り米ドル買い」に動き易い、と考えます。

同様に、豪ドルは対ユーロで「売り圧力」を受けることになる、と考えます。

つまり、マーケット(外国為替市場)は、「ユーロ買い豪ドル売り」に動き易い、と考えます。

+++++

+++++

ドル/円に関しても述べておきます。

先月(2022年9月22日)に実施された政府(財務省)および日銀の「ドル売り円買い介入」は、インパクト大であった、と考えます。

ドル／円は、介入が実施された水準と推測される 145 円台が近づくと、介入警戒感から、それ以上の「ドル買い」が続かず、144 円台に下落する、という値動きを繰り返している、と考えます。

確かに、145 円台以上ならば、再度、政府（財務省）および日銀の「ドル売り円買い介入」が、実施されてもおかしくはない、と考えます。

+++++

日本が為替介入を行う場合は、事前に米国に連絡を行い、価格変動が大きいことを理由にしている、と推測します。

つまり、「スミージング・オペレーション」として、米国に認めてもらっている、と推測します。

しかし、一定の水準（=この場合は、145 円台）を壁にして、それ以上の値動きを制限するような為替介入は、「スミージング・オペレーション」とは認められない、と考えます。

だから、時間が経過すると、145 円台であっても、政府（財務省）および日銀が「ドル売り円買い介入」を、実施できない状況が生まれてくる可能性がある、と考えます。

+++++

「介入」の効果は、一時的なもので、大局での「ドル／円の上昇トレンド」に変化は無い、と考えます。

+++++

+++++

(2022 年 10 月 04 日東京時間 14 : 15 記述)